

しけ絹紙施工方法

■下地調整

- ・ 商品自体の厚みが薄く表面もフラットですので、下地面はできるだけ平滑に仕上げてください。特にパテかけ、サンダーがけは入念に行ってください。また、釘やビス頭部では、不陸の段差が増長され余計見えやすくなりますので、特に念入りに下地調整してください。
- ・ モルタル、漆喰下地ではアクの影響があるため、全面シーラー等でアク止めを完全に行ってください。
- ・ 打ち釘は、変色・腐蝕防止のためステンレスかプラスチックの釘を使用してください。

■接着剤

- ・ 糊付け機を使用しての糊付けは可能です。
- ・ 接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は糊:水=10:6~7 にエチレン酢ビ系ボンドを10~20%程度を目安に混合してください。(このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。)
- ・ 濃度の薄い接着剤は糊が吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして、後の目開きの原因にもなります。
- ・ 粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・ 壁紙表面に接着剤をつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・ 接着剤塗布後は、うませ時間を5~10分程度、施工可能時間は60分以内を目安に作業を進めてください。
- ・ タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ 糸の特性上不規則な横段(シケ模様)がありますので、柄合わせができません。あらかじめご了承ください。
- ・ 重ね裁ち(ダブルカット)の場合はカットテープ等を使用し、表面に糊などの汚れをつけないようにしてください。
- ・ ジョイントが目立ちやすい傾向にありますので、カーターは薄刃のものを使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態でお使いください。

■その他

- ・ 壁紙表面に接着剤や汗などの汚れが付かないよう注意してください。汚れが付きますと、変色のおそれがあるため、付着した場合は直ちに水を含んだタオル等で拭き取り、残った水分をよく絞ったタオル等でたたいて取るようにしてください。
- ・ 手染めの商品ですので、色差が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。